

3-2 主要な調査対象トンボ種の概要

今回調査対象とした主要なトンボ種の概要は以下の通りである。

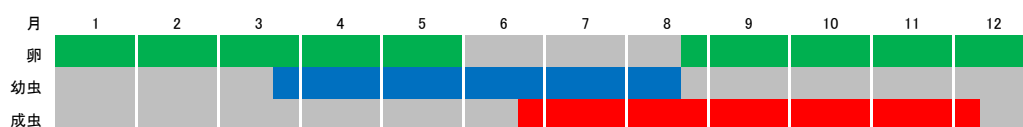
和名：アキアカネ

学名：*Sympetrum frequens* (Selys, 1883)



全長：♂: 32 - 46 mm, ♀: 33 - 45 mm

出現期：6月下旬 - 12月上旬（成虫）



北海道から九州まで分布し、平地～山地の池沼・湿地・水田などに生息する。卵の期間は半年程度であり、若虫期間は3-6か月程度である。1化性で卵越冬する。♂は成熟しても頭・胸部は赤くならず、顔面は橙褐色で腹部は橙赤色である。♀の顔面は黄褐色であり、腹部が淡褐色の個体と、背面が赤くなる個体がいる。♂♀とも胸部の黒条の先端は尖る。未成熟個体の♂はナツアカネより黄味が強く、胸部の斑紋は個体差に富む。若虫の背棘は第4～8節にあり、側棘は第8・9節にあり9節のもの先端は第9腹節の後縁に届く。若虫の体長は16～20mmである。国内の種ではタイリクアキアカネとごく近縁で、種間交雑もしばしば記録される。同属種とは、胸部斑紋、頭部斑紋、脚の色で区別する。日本人に最もなじみの深いトンボの一つである。朝鮮半島・中国・ロシアにも分布する（表3-2）。

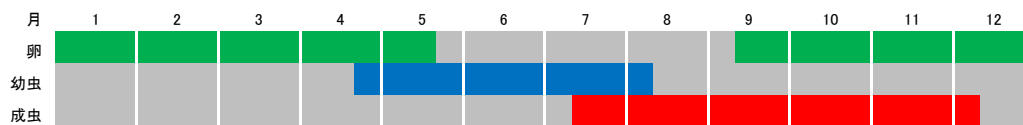
和名：ナツアカネ

学名：*Sympetrum darwinianum* (Selys, 1883)



全長：♂: 33 – 43 mm, ♀: 35 – 42 mm

出現期：7月中旬 – 12月上旬（成虫）



北海道から九州まで分布し、平地～山地の池沼・湿地・水田などに生息する。卵の期間は半年程度であり、若虫期間は3～5か月程度である。1化性であり、卵越冬する。アキアカネよりも少し小型のアカトンボである。♂は成熟すると全身が赤化し、顔面まで赤化する。成熟♀は腹部背面が赤化する個体が多いが、褐色型♀もみられる。未成熟個体の♂はアキアカネより橙色みが強い。♂♀とも胸部第1側縫線上の黒色条が四角く断ち切れる。若虫の背棘は第4または第5～8節にあり、側棘は第8・9節にあり8節のもの先端は第9腹節の後縁を越える。若虫の体長は17mm程度である。国内の種ではマダラナニワトンボとごく近縁で、種間交雑も知られる。もっとも普通のアカトンボの一種であるが、地域によっては減少している。朝鮮半島・中国にも分布する（表3-2）。

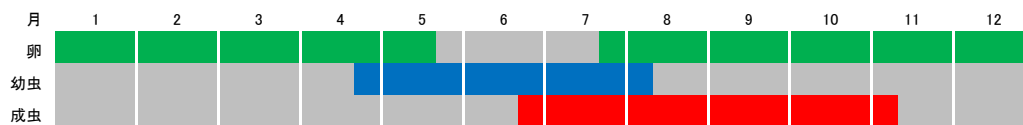
和名：ノシメトンボ

学名：*Sympetrum infuscatum* (Selys, 1883)



全長：♂：37 - 51 mm, ♀：39 - 52 mm

出現期：6月下旬 - 11月上旬（成虫）



北海道から九州まで分布し、平地～山地の池沼・湿地・水田などに生息する。卵の期間は半年程度であり、若虫期間は3-5か月程度である。1化性であり、卵越冬する。♂は成熟すると暗い赤褐色になる。翅の先端に褐色斑のあるアカトンボである。胸部側面の黒条は2本とも上端まで達する。♂♀ともに眉斑のある個体とない個体とがいる。若虫の背棘は第4または第5～8節にある。側棘は第8・9節にあり8節のもの先端は第9腹節の後縁を越える。若虫の体長は18mm程度である。国内の種ではリスアカネおよびナニワトンボと近縁である。東北地方では翅斑が消失傾向の個体がよくみられる。同属他種とは、翅の模様のほか、胸部斑紋、♂尾部付属器の色調で区別する。もっとも普通にみられるアカトンボの一種である。朝鮮半島・中国・ロシア（極東）にも分布する（表3-2）。

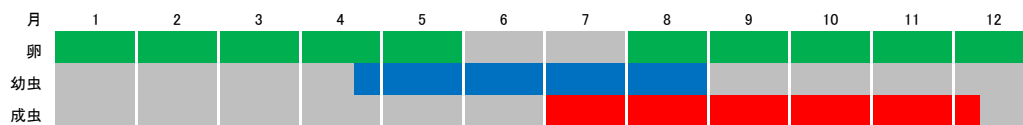
和名：ミヤマアカネ

学名：*Sympetrum pedemontanum* (Allioni, 1766)



全長：♂：30 - 41 mm, ♀：30 - 40 mm

出現期：7月上旬 - 12月上旬（成虫）



全国に広く分布し、平地～山地の緩やかな流れや用水路、水田、大河の河川敷などに生息する。卵の期間は半年程度であり、若虫期間は2-5か月程度である。1化性であり、卵越冬する。ただし、秋に羽化することもあり、一部は年2化している可能性がある。成熟♂は頭・胸部も赤化する。成熟♂は縁紋が赤い。♀は縁紋が白く、体色は橙褐色の個体が多いが、縁紋や腹部の赤みが強くなる個体もいる。♂♀ともに体には目立った斑紋がなく前後翅に広い褐色の帯をもつ。♂の未成熟個体の縁紋は白い。若虫の背棘は第4～8節にあり、側棘は第8・9節にあるが太短く、第9腹節のものでも腹節の半分以下の長さである。若虫の体長は13～17mmである。海外からは複数の亜種が記載され、日本産は亜種 *elatum* (Selys, 1872) とされる。翅に特徴的な帯条斑をもつ種は、本種およびコフキトンボ♀のみである。全国に広く分布するが、地域によっては減少している。朝鮮半島・中国・ロシア・ヨーロッパにも分布する（表3-2）。

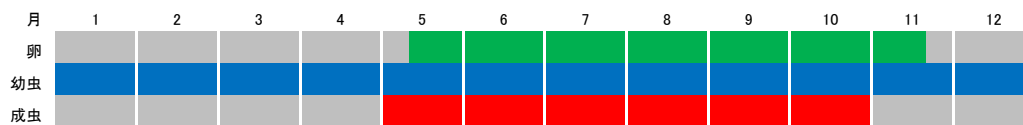
和名：シオカラトンボ

学名：*Orthemtrum albistylum* (Selys, 1848)



全長：♂: 47 – 61 mm, ♀: 47 – 61 mm

出現期：5月上旬 – 10月下旬（成虫）



全国に広く分布し、平地～山地の池沼・湿地・水田・河川の淀みなど、広く止水域に生息する。卵期間は5–10日程度、若虫期間は2–8か月程度である。多化性で、若虫越冬する。中型のトンボであり、縁紋が黒い。♂は6節まで白粉を吹き、翅はほぼ無紋で、複眼は深い水色である。♀は黄褐色であり、翅端には小さな褐色斑がある。腹部は麦わら模様で尾毛が白い。複眼は緑色。老熟すると♀でも薄く白粉をおび、♂のように全身に白粉を吹く個体もいる。胸部の黒条の太さには変化がある。未成熟個体は黄褐色で、体色が♀に似る。翅端に褐色斑のある個体もいる。若虫の腹部には背棘がなく、頭部は横長の長方形、肛上片はやや長い（長さは最大幅の約2倍）。若虫の体長は20mm程度。ヨーロッパ～中央アジアに原名亜種が分布し、日本産は亜種 *speciosum* (Uhler, 1858) とされる。同属種とは体の大きさや斑紋、産卵弁の形状などで区別する。もっとも普通にみられるトンボである。朝鮮半島・台湾・中国・ロシア・ヨーロッパにも分布する（表3–2）。

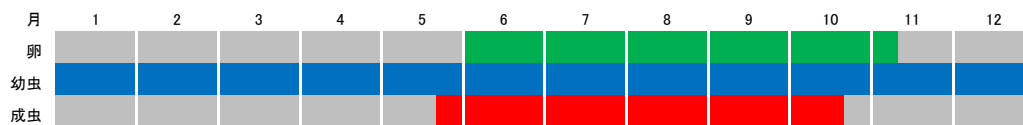
和名：ショウジョウトンボ

学名：*Crocothemis servilia* (Drury, 1770)



全長：♂: 41 – 55 mm, ♀: 25 – 34 mm

出現期：5月下旬 – 10月中旬（成虫）



国内に広く分布し、平地～丘陵地の開放的な池沼や湿地などに生息する。卵の期間は5日～2週間程度であり、若虫期間は2～8か月程度である。1化から多化（八重山諸島では成虫が1年中みられる）であり、若虫越冬する。中型のトンボで。成熟♂は全身が真紅で鮮やかな赤色になり、翅に目立った斑紋がない。♀の体色は橙黄色～黄褐色である。♂♀とも翅の基部に橙色斑があり、腹部背面に黒い縦線がある。南西諸島の個体群は腹部背面の黒条が目立つ。未成熟個体は体色が橙黄色～黄褐色でオオキトンボに似るが前胸には毛がない。若虫の腹部の背棘がなく、側棘は第8・9節にあるが短小で目立たない。若虫の体長は18～23mmである。北海道～屋久島の個体群は亜種 *mariannae* (Kiauta, 1983) とされ、トカラ列島以南の個体群は原名亜種とされる。もっとも普通にみられるトンボである。朝鮮半島・台湾・中国・東南アジア・アフリカにも分布する（表3-2）。

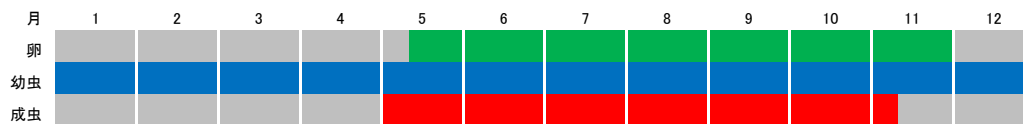
和名：アオモンイトトンボ

学名：*Ischnura senegalensis* (Rambur, 1842)



全長：♂: 30 - 37 mm, ♀: 29 - 38 mm

出現期：5月上旬 - 11月上旬（成虫）



関東以南、朝鮮半島・台湾・中国・アジア・アフリカに分布する。関東地方などでは分布域の北上がみられる。平地～丘陵地の開放的な池沼や河川の水溜りなどに生息する。沿岸地方に多く、やや水深のある止水域に広く生息。卵期間は1-2週間程度、若虫期間は1か月半-8か月程度である。2化から多化で、若虫越冬する。♂は腹部第8・9節の青色斑が目立つ。♀は全身がほぼ淡緑色。♀には明瞭な2型があり、♂と同じような体色、斑紋をもつタイプがある。♀の黒色条は第1節～第2節前半には通常見られず、第8節腹面には棘がある。未成熟個体の胸部～腹部前方はオレンジ色である。若虫の尾鰓は柳葉状で先端は尖り、斑紋がない。若虫の体長は20mm程度。国内の種では、マンシュウイトトンボとごく近縁。もっとも普通のイトトンボ科のトンボである（表3-2）。